

かいせい かん 「開成館」とは？

洋風に似せた建物「開成館」

開成館は、木造三階建ての擬洋風建築である。

工事を行ったのは地元の大工で、増子儀三郎、宗形彦八であった。彼らは、実際に西洋建築を見たことはなく、恐らく絵図面などを基に西洋風に似せて、在来技術により建築したと思われる。

壁は白漆喰で、窓にガラスが使用されている。ガラス窓は各階で形を変えている。各階の外壁四隅と窓枠をねずみ漆喰として擬石積にみせた化粧がなされている。玄関は唐破風付きの車寄せがある。窓枠、手すりなどの木部を塗装するのにペンキが用いられ、洋風に似せる工夫がなされた。ガラスやペンキなどは東京から入手している。

建築当初の屋根は栗材の木羽葺だったが、杉材に変更されている。後に建物維持のために鉄板葺きに改められた。また、当初3階バルコニーは軒の出が少なかったが、創立後まもなく3階屋根を延長して、現在のベランダ風に改修されている。これは、軒が短いため2階天井上に直接雨が当たる不具合によるものであろう。

明治9年ごろ



明治9年ごろの開成館

現在と屋根の形が少し違う

明治16年～19年



開成山農学校エッチング
立岩家文書 郡山市歴史資料館蔵
開成山農学校時代の開成館の姿

こけらぶき こぼぶき
柿葺(木羽葺)屋根
後にトタン葺、鉄板葺の屋根となる

令和2年

ガラス窓
各階ごとに形が違う

3階屋根を延長し
ベランダ風になった



現在の開成館
福島県沖地震被災前の姿

から は ふ
唐破風

しっくい かべ
漆喰壁

ねずみ漆喰
擬石積の化粧